

企画展

館蔵 刀剣コレクション

刀と拵の美

The Beauty of Swords and Their Ornate Mountings:
The Sword Collection of the Kosetsu Museum of Art



香雪美術館の刀剣コレクション、名品の数々を紹介

香雪美術館には、現在約 50 振の刀剣が所蔵されています。コレクションの礎を築いた朝日新聞社創業者・村山龍平（1850 ～ 1933）は、伊勢国紀州藩田丸領（現三重県度会郡玉城町）の武士の家に生まれます。刀剣の鑑定に長じていた父の影響もあり、刀剣に強い関心を持ちました。青年時代には、伊勢の刀匠を訪ね歩いたと伝わります。若くして収集を始めた刀剣の数は、多い時には 800 振にものぼったといえます。

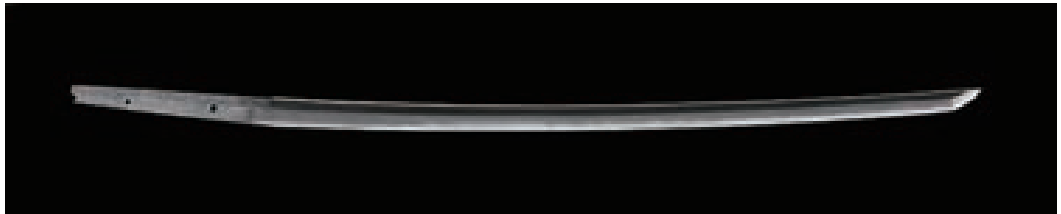
本展では、村山が愛蔵した刀剣と、刀剣の外装である拵、拵を飾る刀装具も併せて展示します。変化に富む刀剣の鉄のきらめき、個性的で鮮やかな拵の装飾、緻密で多彩な刀装具のデザイン、それぞれの「美」を感じていただけると幸いです。

I. 刀剣の美 – 曲線と鉄のかがやき

刀剣の魅力は、弧を描く美しい姿、そして鉄が織りなす^{はもん}刃文と^{じがね}地鉄の文様の有様です。姿は時代の特徴を示し、刃文と地鉄には地域や流派の特徴が現れます。

本章ではまず、「五箇伝」^{ごかでん}と称される大和国（奈良県）・山城国（京都府）・備前国（岡山県）・相模国^{さがみ}（神奈川県）・美濃国（岐阜県）の刀をご紹介します、続けて諸国の刀工によって制作された刀を展示します。香雪美術館の刀剣コレクションは、鎌倉時代から室町時代までの^{ことう}古刀を中心に、全国津々浦々の産地を網羅しています。それぞれの地域、刀工によって生み出された鉄の美をご堪能ください。

山城国



①重要文化財 太刀 銘 吉家作 平安～鎌倉時代（11世紀～13世紀）

備前国



②重要文化財 太刀 銘 正恒 平安時代（12世紀）

相模国



③重要美術品 短刀 銘 国光 鎌倉時代（13世紀）

近江国



④重要美術品 太刀 銘 江州甘呂俊長 南北朝時代（14世紀）

Ⅱ. 拵こしらえの美 – 工芸技術すいの粋を集めて

拵こしらえとは、刀身を傷つけずに持ち運ぶための外装です。刃の部分を納める鞘さやには漆が塗られ、蒔絵まきえや螺鈿らでんなどの漆芸技法で華やかに彩られます。手で握る部分である柄つかには、真珠を集めたような美しい鮫皮を着せ、鮮やかな色で染め上げられた糸や革を巻き付けます。拵に付属する金具類は、その小さな部材に緻密な細工が施されます。拵は、工芸技術の集積ともいえる様相を呈しています。

本章では、色とりどりの拵に加え、拵に付属するつば 鐔とうそうぐなどの刀装具も、併せて紹介します。



⑤ 金梨子地葵九曜紋蒔絵糸巻太刀拵 江戸時代（18～19世紀）



⑥ 木地呂雲文蒔絵刀拵 江戸時代（19世紀）



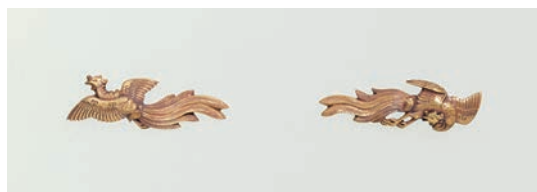
⑦ 朱漆海老鞘脇指拵 江戸時代（19世紀）



⑧ 黒漆牡丹文蒔絵短刀拵 江戸時代（18世紀）



⑨ 雲形花菱文散七宝鐔 江戸時代（19世紀）



⑩ 鳳凰図目貫 短冊銘 菊岡／光利 江戸時代（19世紀）

Ⅲ. 刀と拵の美－時代を超えた競演

本章では、刀剣の名品と、近代に入り特別に仕立てられた豪華な拵を二件展示いたします。

そのうちの一件「太刀 銘 来国俊」は、山城国で隆盛を極めた来派の国俊による鎌倉時代の太刀です。その太刀を収める「金梨子地蔦紋唐草蒔絵衛府太刀拵」は、大正時代に村山の注文により数多くの工人が携わり制作されました。金具の全ては金無垢という大変豪華なもので、村山家の家紋である鬼蔦紋があらわれます。

時代を超えて響きあう、古代の刀工と近代の工人による美の競演をお楽しみください。



⑪太刀 銘 来国俊 鎌倉時代（14世紀）



⑫金梨子地蔦紋唐草蒔絵衛府太刀拵 大正8年（1919）

作品画像貸出一覧



①



②



③



④



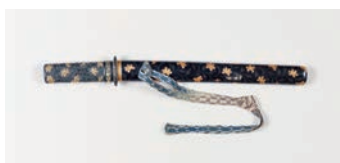
⑤



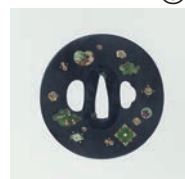
⑥



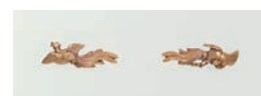
⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫

①重要文化財 太刀 銘 吉家作 平安～鎌倉時代 (11世紀～13世紀)

②重要文化財 太刀 銘 正恒 平安時代 (12世紀)

③重要美術品 短刀 銘 国光 鎌倉時代 (13世紀)

④重要美術品 太刀 銘 江州甘呂俊長 南北朝時代 (14世紀)

⑤金梨子地葵九曜紋蒔絵糸巻太刀拵 江戸時代 (18～19世紀)

⑥木地呂雲文蒔絵刀拵 江戸時代 (19世紀)

⑦朱漆海老韃脇指拵 江戸時代 (19世紀)

⑧黒漆牡丹文蒔絵短刀拵 江戸時代 (18世紀)

⑨雲形花菱文散七宝鐔 江戸時代 (19世紀)

⑩鳳凰図目貫 短冊銘 菊岡／光利 江戸時代 (19世紀)

⑪太刀 銘 来国俊 鎌倉時代 (14世紀)

⑫金梨子地鳶紋唐草蒔絵衛府太刀拵 大正8年 (1919)

開催概要

会 期 2024 年 1 月 6 日 (土) ～ 3 月 17 日 (日)

休 館 日 月曜日 (祝日の場合は翌火曜日)

開 館 時 間 10 時～17 時 (入館は 16 時 30 分まで)

夜間特別開館 2024 年 1 月 25 日 (木)、2 月 22 日 (木)、3 月 14 日 (木)
19 時 30 分まで開館 (入館は 19 時まで)

料 金 一般 1,200 円 (1,000) 円、高大生 700 円 (500) 円、小中生 400 円 (200) 円
◎ () 内は前売り (一般のみ)、20 名以上の団体料金

主 催 公益財団法人 香雪美術館

会 場 中之島香雪美術館
〒530-0005 大阪市北区中之島 3-2-4
中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4 階
TEL 06-6210-3766 FAX 06-6210-4190
<https://www.kosetsu-museum.or.jp/nakanoshima/>
✉@kosetsu_museum 📺@n.kosetsu

記念講演会

刀剣・拵の楽しみ方 ― 香雪美術館の所蔵品を中心に ―

【講 師】原田 一敏 氏 (東京藝術大学名誉教授・ふくやま美術館館長)

【日 時】2024 年 2 月 18 日 (日) 14:00 ～ 15:30

【会 場】中之島会館 (当館隣)

【参加料】500 円 (展覧会観覧には別途入館料が必要)

【定 員】280 名 (予定・先着順)

【受付開始】2023 年 10 月 7 日 (土)

応募方法

◎ウェブサイト

当館HP 上の専用フォームをご確認ください。

◎往復ハガキ

1 通で 2 名様まで応募可能。参加人数、それぞれの住所、氏名、年齢、電話番号を明記ください。返信ハガキの宛先には、代表者の住所・氏名をご記入ください。返信ハガキで参加証を郵送します。

【宛先】〒530-0005 大阪市北区中之島 3-2-4
中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4 階
中之島香雪美術館「刀と拵の美」展 講演会係

ギャラリー
トーク

学芸員による展示解説

2024 年 1 月 13 日 (土)、2 月 3 日 (土)、2 月 24 日 (土)

展示室にて、いずれも 15:30 ～ (1 時間程度)

参加無料 (入館料のみ)

FAX: 06-6210-4190

取材・写真使用申込書

中之島 香雪美術館

Nakanoshima Kosetsu Museum of Art

(西暦) 年 月 日

取材について

取 材 者	フリガナ	フリガナ
	会社名	担当者名(連絡者)
	住所 〒	TEL
		FAX
	E-mail	取材人数 名
取材希望日時	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
媒 体	種別 ☐ テレビ ☐ ラジオ ☐ 新聞 ☐ 雑誌 ☐ その他()	
	番組名・コーナー名	
放送・発行日等	(西暦) 年 月 日 時 分 ~ 時 分	
取 材 の 範 囲	撮影 ☐ する (撮影機材 ☐ スチール ☐ ENG ☐ DVC) ☐ しない	
備 考		
特に取材したい場所・内容等		

写真使用について

プレス用写真一覧をご確認の上、希望画像番号をご明記ください。

作 品 画 像	中之島香雪美術館 館 内 画 像
---------	---------------------

注 意 事 項

- ・企画書など概要がわかる書類の提出をお願いいたします。
- ・原稿および記事については貴メディアへ御掲載前に中之島香雪美術館広報担当宛に確認のためお送りくださいますようお願いいたします。
- ・掲載後は掲載誌等の送付をお願いしております。
- ・画像の名称(作品名)、指定、展示期間、所蔵元、クレジット(ある場合)を記載してください。
- ・サイズは、(web掲載用)長辺1000px 100dpi (紙媒体用)長辺1000px 300dpi まで。
- ・ウェブ掲載の場合、掲載期間を最長6ヶ月とし、その後は削除をお願いします。それ以上の期間掲載をご希望の方は、再度ご連絡ください。

報道関係のお問い合わせ

「中之島香雪美術館」 広報担当

TEL 06-6210-3766 FAX 06-6210-4190 Email n-kouhou@kosetsu-museum.or.jp

〒530-0005 大阪市北区中之島3-2-4 中之島フェスティバルタワー・ウエスト 4階